

発言者	発言要旨
座長	アンケート結果及びヒアリングを踏まえた意見交換をお願いする。先に報告を受けたアンケートの調査結果も含めて、何か質疑・意見等はないか。
委員	このアンケートはとても素晴らしく、鹿児島市全体の（協議会の）流れがどうなっているかコミュニティ協議会に携わる人にとって参考になると思う。このアンケート結果について、（コミュニティ協議会会長の）全体の集まりの意見交換や情報共有の場はないのか。
事務局	コミュニティ協議会の会長をメインとした意見交換を今年度も実施する予定であり、いただいたご意見等も参考にこれから検討していく。
委員	<p>地域の若い世代、後継者になるような人の巻き込みをどうしたらいいかということであるが、新しく参加して欲しいというリクエストがあるけれども、（協議会側が）ICTが弱いとか、紙媒体しかないとなると、巻き込みたい世代とのコミュニケーションの取り方のギャップがあると思う。ICTの活用が得意な人が、役割分担をしながら、後継者に繋がるような仕組みやガイドラインはあった方がいいと思った。</p> <p>そういった意味でいうと、役割の負担がすごく重いということが挙げられていたので、「1人1つは何かの仕事をしましょう」ということで関わりを持つ仕組みがあると、協議会がそういうやり方をしたらいいんだというものさしになる。</p>
座長	負担感の減と効率化が行き届くような感じになるためのものが必要である。
委員	<p>今日の4団体の話を聞くだけでも、いろいろな特色があるので、私たちコミュニティ協議会全部が共有できる機会が必要だと思う。参考事例として、冊子を作る、ICT関係で流すのもOKだ。</p> <p>私が気になったのは、アンケートで、「うちの団体はこれでいい」と思っている団体の数がすごく気になる。地域にはいろんな団体、事業者、企業があるが、なかなかその枠を広げられないのはなぜなのかも追求していくのは必要だ。町内会とは違うものをコミュニティ協議会は求めているということ、役員にも意識づける必要があるし、参加する市民の意識も必要だと思う。役員がスキルアップしていかないと、「もう自分たちはこれでいい」という感じになってしまうと、その地域はそれで終わりというところになってしまうと思う。だから、みんなが自分の好きなことを生かせるまちづくり、それぞれの個性を認められる役員の完成度は、必ずスキルが必要だと思う。</p> <p>若い人たちを引っ張り込んでいってそのスキルを広げていったり、達成したり、コミュニティ協議会がいろいろな意見や団体を取り込んでいけるだけの要領を役員が養っていかなければならないということは、改めて思った。</p>
座長	先進事例の情報や方法の共有、ICTも含めてできれば大分底上げになる

発言者	発言要旨
	<p>のではないかという気がする。全体の集まりの場で、このアンケート結果も踏まえて、共有できればいいと思う。</p>
委員	<p>(このアンケート結果について)いろいろと考えられることがあった。一つは、団体が増えていない現状をどう見ていくのかということである。「活動をもっと広げなければ」という意識は高いが、その具体的な方策や手段等に関する悩みがあると思われるので、そういう学びを保障していくことが大切ではないかと思う。</p> <p>また、「活動を増やす」と述べられているが、財政に対する意識が非常に低いところが気になる。財源に関する理解を深めるための学習も必要ではないかと思う。やはり、実際にその活動の中で、どういうふうに自主財源と補助金も含めて財源を確保して、活動を広げていくのかというのは、また学びの要素として大事ではないかと思った。あとはやはりリーダー像をどう考えていくかが大事だと思われる。単純に活動を引っ張っていただけがリーダーではなく、現在、リーダー像が多様化しており、特にICTや情報共有はすごく大事だ。</p> <p>私は、コミュニティのあるべき理想像に対して、どのように、ICTが補助できるかという発想で考えなければならないと思っている。つまり、理想とする活動があるとして、その活動に対し、人員であったりとか時間であったりとかいろいろと足りないところ、難しいところにICTがかかわって代行したり補助したりするという構図になるはずだ。</p> <p>例えば、情報の伝達、日程や連絡の調整機能など、参加に関する考え方もICTが有効に活用できる。具体的にいえば、活動に対し、参加しやすいZoomを使ったり、なかなか直接会えないからこそ、自分の意見をコミュニティの掲示板に書き込んだり、いろんなコミュニティの仕事をみんなでシェアして分担できるようになるシステムをICTを使って導入するということだ。その際、ICTを導入することが目的化するのではなく、何をしたいのか、どうありたいのかというアイデアをワークショップ等で明確化したのち、それらの思いや願いにICTがどのように利活用できるかと考えることが大事だと思う。そのように考えないと、今回のアンケートのように、「実際ICTを活用していますか」という問いに対して、永遠に答えが返ってこないという結果になると思う。ホームページを活用してるからといって、ただ作ってるだけという場合もあるし、そういうところまで踏み込んだ形で分析したり、考えてみてもいいと思った。</p> <p>ぜひ、住民の意識の変化とか、次世代のリーダーの育成は、市はしっかりビジョンを持って、体系的にやっていただくと非常に嬉しい。</p>
委員	<p>それに一つ加えて、ICT (のスキル) を持った方が参加してくるのはあ</p>

発言者	発言要旨
	<p>りだと思うが、事務局のスキルアップ（が必要だ）。今うち（の協議会）も2人入れているが、手当の補助が年間57万5千円しかない。それではなかなか難しい。ほとんどボランティア時間が多い（のが）現実で、多分どこもそうだと思う。手広く、深くやろうとしたら、やはりどうしても足りない部分になってくるので、今後検討していただければいい。</p> <p>役員は今のままでもある程度いいと思う。やはり事務局サイドは、ICTのできる若い人をできるだけ雇用していくことも必要で、イコール賃金も並行してくるのかなと思うので、今後検討していただければいいと思う。</p>
座長	<p>まず、各協議会で必要なやりたいこと、ICTのアドバイスが欲しいときの相談相手が、たまたま（協議会の）メンバーにいるところや雇用しているところがあれば、全然いないところの方が多いとなると、作業をする人を、市の補助金か、学生などが自分の勉強になるとしてボランティアで参加するか、あとは、企業の社会責任や社会参画意識を頼るか、あるいは協定を結んで、逆に誘致まで行くようなことも必要だと思う。やはり皆さんからICTのこと（回答）が多いと思った。</p> <p>それから、参加者を増やす、内容や質を上げることは必要だが、もう活動に満足しているところが多いことがアンケートに表れている。このままいくと、現状満足のまま徐々に活動が廃れていくという危機感を持った。活動のメリットや魅力の不足があるので、ここをどう作っていくかを考える知恵袋みたいに役員会がなればいいと思う。</p> <p>外の空気が偶然入りやすい協議会もあれば、あえて入れようとしている協議会もある。その中で、何かメリットがつかれないか。若いうちは、自分の学業や職業能力など、自己伸長が第一で、次に家庭生活や社会適応に必要な学びへのニーズが出てくる。自分の好きなことや趣味の学びのほかに、30代ぐらいから徐々に地域について知って学びたい、社会を良くしたいという学習意欲が強まってくるのが、成人学習のニーズの傾向としてある。そこと絡めて何かできないか。</p> <p>どの世代が、どの職種の人が、あるいはどの立場の人がどこにメリットを感じるかというところの分析も、できたらいいと教育論から思った。他にあるか。</p>
委員	<p>自分の校区では人口割合で主婦の方々の層がかなり占めている。その方々の社会の接点は、今コロナ禍もあって置いて行かれている状況がある。（コロナ禍前に）特に皆さんが頑張っていたのはPTAの活動。でも今PTAもない。PTAは何か役割があるから頑張るけれども、もし地域コミュニティに参加したら、PTAの役はしなくていいという制度があれば、コミュニティに流れる。この制度設計はお金がかからないので、そういった仕組みも一</p>

発言者	発言要旨
	<p>つの施策としてはある。</p>
<p>座長</p>	<p>公務員の地域参画の話もあったが、パラレルワーク（2つ以上の仕事を平行して携わる働き方）として公務をしながら、働き方改革で疲弊せずに地域活動も積極的にやる仕組みを作ろうとしている自治体も聞いたことがある。負担が重なるばかりなので、そこを何とかしたいというのは、まさにそうだと思った。</p>
<p>委員</p>	<p>やはり緩やかでもいいから意識変化を促していかないといけない。基本的には家族主義があまりにも強過ぎて、学校・家庭・地域の連携もそうだけど、家庭の責任にしてしまって、そうすると家庭や仕事とコミュニティ活動は完全にトレードオフ（両立できない関係性）になってきて、結果として、時間的に余裕がある人しかできないという構図となり、特にコミュニティ活動に関しては、高齢者が中心となるしかない。その関係はもういい加減に変化させていかなければならないと思う。</p> <p>例えば、家庭は子育てをより豊かにするため、お金や時間や愛情を注がなければならないというプレッシャーを感じており、結果として、地域活動等には時間や労力を割けないと思っているが、協議会が（地域の）子どもたち同士の遊びや勉強会やキャンプなどを企画し実施してくれるとしたら、多分親はコミュニティに大いに感謝するだろう。だけど、それが全く意識や経験がない親世代も増えてきているので、自分一人で一生懸命何とかしないといけないと思って、孤立している現状がある。そこに協議会が果たす役割は非常に大きいと思う。</p> <p>コミュニティにおいて、生きがいや協力、意識変化がなぜ進まないのか、もっと切り込んでいかないと、永遠に時間がある人とか余裕がある人とかお金がある人だけがコミュニティ活動をするみたいな話になってくる。そこにも格差もあるし、だから貧困対策も、全部連動しており、コミュニティはその辺りに突っ込んでいかないといけない。基本的にさっき言ったような様々なメリットがそこにあるはず。</p> <p>私が希望を持っているのは、結構シェアというものに対する感覚が、最近の子たちにはあると思う。その世代の中でコミュニティを考えると、何かもっとシェアしようという発想になるのかもしれない。しかし、今の親世代は自己責任、一人前、他人に迷惑をかけないという考え方が強いと思う。</p> <p>私はPTAでも、もっといろいろ協力したら楽だと思う。意外とそのことを理解していなくて、学校は家庭の責任だとか、もうちょっとちゃんと家庭で教育してくれとか躰してくれとか、ちゃんと子供の声を聞いてくれとか、スーパーマンになることを促された結果、家庭がどんどん孤立してって地域にかかわらなくなっている。実はそれはトレードオフではなくて一体</p>

発言者	発言要旨
	<p>だ。</p> <p>コミュニティというのが、そういった幸福とか彼らの貧困といったのも支えていける存在になり得るということをどう打ち出して、どういう活動をしていくのかが大事だ。その議論が一向に進まないというのが、私はジレンマだ。</p>
座長	<p>子育て支援だから、人口減少対策にも密接に関わると思う。能力の高い親御さんでも、育児家事を毎日ずっと孤独にすることでストレスの問題もある。そこは離島がうまくいっているところもあるかもしれない。コミュニティで育てるという（ことが）自然にある。</p>
委員	<p>人と関係を持つことが、スマホとの関係になっていて、スマホがそう言っているからこうしないといけないみたいな形になっていると思う。現実に姪っ子や甥っ子たちがそういう形にあるようだ。昨日もPTA会長が「これ以上、地域のことを私に投げないでほしい、もう学校のことで手一杯で、出ることがいっぱいあって、これ以上出られない」と言われた。すごくいろいろ分析をされてマッチした意見をくれるので、私的には失いたくない存在。昨日校長先生に事情を話し、「宛名が会長なので全部自分が出なければならぬという思いが強いと思うので、他の方たちに振ってもらいたい」と話をした。他の出られる人たちに振ってくればそれでいい。振れない面もあるとは思いますが、そういうキャパをつくっていくことが大切。</p> <p>だから、今おっしゃった子育ても一緒だと思う。全部自分でやらないといけないということではなくて、誰でも、「ちょっと忙しいから、ちょっと見といてくれる」という社会であれば良い。妙に気遣いをし過ぎて、あの人こうだから駄目だよ、この人こうだから駄目だよ、じゃあどうしようかみたいな、人間関係がなかなかつくれていない。</p> <p>ラジオを聞いていたら、今、就職して3年で辞める子たちがすごく多い（と言っていた）。それはやはり人間関係が問題だと。だからそれを何とか学生のうちに人間関係づくりの手法で学んでほしい。でもそれは、体験しかない。もうどんなに理屈でいろいろ言ってもやはり現場に出て（いかななくてはならない）、だからそれをやるのが、やはりこのコミュニティ協議会であったりするのかなと思うので、地域がこれだけ楽しいんだよっていうものを作っていく。</p> <p>だから、先ほど言われたやりたいことを自分たちで計画を立ててやるという、楽しさと責任感が、人を育てていくと思うので、そこら辺を組み立てていける（のではないか）。</p>
委員	<p>組織をしっかりして、それに対する対価の考え方についてももっと真剣に考えていかなければならないと思う。今まで、地域活動はすべてボランティア</p>

発言者	発言要旨
	<p>アを前提にやってきた。ボランティアはすごく大切だし、原動力であると思う。しかし、ボランティアにこだわりすぎると、結局そこはさっき言った時間や仕事とトレードオフの関係になり、時間的な余裕を持つ人のみを対象となってしまう。</p> <p>例えば、生きがい、やりがい、チャレンジ、ネットワークなど、お金の換算したらものすごい価値だ。だからそういった意味の価値が生まれるということをちゃんと目的化して、その組織の中で、ある意味お金と同等の価値をいろんな人たちが共有できるようにすることによって、より活動の意味や可能性は拡大していくと思う。どうしても、やりがいや生きがいなどでは代替できないものについては、お金という対価で補ってあげることも必要で、そこには必要な予算が投入されるべきであると思う。</p> <p>だから、魅力的なコミュニティ活動の体制を作っていくというのは、単純に現金としての予算だけではなくて、そこに例えばやりがいとか生きがいとか、全体を通した価値の構築を考えてみる必要がある。ある人にとっては、それはきつくて面倒な仕事だから対価を必要とするが、ある人にとっては、それは生きがいであったり、幸せだったりするわけで、そのようにしっかりとコミュニティの構成員の存在を認識し、それぞれの価値を最大化することが重要であり、だから組織化が必要だと思っている。曖昧にボランティアに頼っていて、「ボランティアを強制」みたいな話になってくると、話が転倒してしまう。</p>
委員	<p>ボランティアが、私はだんだんなくなっていくんじゃないか（と思う）。せめて有償ボランティア。そういう形を作っていく社会でないと。若い人たちは、働いて現金をもらっている。それをただとなったときに、私の時間は何となってしまうので、やはり社会的に全体を考えていかないといけない。だから生み出すものを自分たちでやっていくということがコミュニティ協議会のこれからの必要性となっていく。</p> <p>予算をもらっているから、自分たちは何もしてはいけない、お金を生み出すことをしてはいけないというような考えもまだコミュニティ協議会の中にはあると思う。何か自分たちでお金を生み出していくことをやっていると、わくわくドキドキ感もあるし、そういう地域社会に持っていけると良いだろうと思う。</p>
委員	<p>コミュニティビジネスの導入も全く逆転していて、「コミュニティの予算を増やすために導入しましょう」だから、誰も本気にならない。コミュニティの未来や理想があって、こうありたい、こうしたい、こういう人材が欲しい、こういう人材を雇うために予算が必要、だからこそそれを補うための予算の確保が必要というのが順序ではないか。その予算の確保の方法の一つ</p>

令和4年度 鹿児島市コミュニティ意見懇話会 第2回概要記録

発言者	発言要旨
	が、コミュニティビジネスであるといえる。だからこそコミュニティビジネスが、全体の計画書とリンクせずに、各論的になっていることに私は少しもやもやしている。
座長	そろそろ時間となるので、本日はここまでとし、追加でご意見等があればメール等で事務局にお寄せいただき、事務局にて取りまとめを行った後、第3回の次回の会議の冒頭でまた改めて意見交換の場も設けたいと思うが、よろしいか。
	(異議なし)
座長	それでは、本日は長時間にわたり、非常に白熱した貴重なご意見をいただきました。また、議事進行にご協力いただき感謝する。